

鈴鹿の風

すずかのかぜ

VOL.
50

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

難病と闘う

院長 久留 聰

第77回 国立病院総合医学会

第14回東海北陸重症心身障害ネットワーク研究会

第46回東海北陸神経筋ネットワーク研究会

第2回生き生き健康フェア・表彰

療育指導室からのお知らせ

地域医療連携室だより

院内成人式

名誉院長の部屋「本を出しました」





新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。昨年はアルツハイマー病の治療薬であるレカネマブ(レケンビ®)が承認され大きな話題となりました。認知症の診療において大きな一歩となると考えられます。以前から脳神経内科という分野は、診断の醍醐味はあるものの結局治らない疾患が多いとよく言われてきました。21世紀に入り、さらには令和の時代を迎えて、今までの地道な研究が実を結んで治療可能な疾患が増えつつあります。「根治療法」といって疾患をすっかり退治してしまえるのが理想ですが、まだそこまでは難しく、現時点では疾患の進行を遅らせることのできる「疾患修飾療法」が出てきつつあるということです。当院の守備範囲である神経筋疾患においても、デュシェンヌ型筋ジストロフィーや脊

髄性筋萎縮症などに対する有効な治療薬が出て実際に治療を開始しています。さらに薬物治療に加えてロボットスーツを用いたスマートなリハビリテーションを行なっており更なる効果が期待されます。難病中の難病と言われる筋萎縮性側索硬化症(ALS)に対してもリルゾール(リルテック®)やエダラボン(ラジカット®)という治療薬が使えるようになっていますが、まだまだ効果は限定的であり、他にもさまざまな候補薬の治験が現在行われているところです。

認知症やパーキンソン病、ALSといった神経変性疾患は加齢と深く関係する疾患であり、これからの中高齢化社会において有病率が増えることは確実です。医学・医療の進歩により癌患者の治療成績は明らかに向上しましたが、今度は老化に伴う神経難



第77回 国立病院総合医学会

令和5年10月20日(金)、21日(土)の両日、広島県において第77回国立病院総合医学会が開催されました。コロナ禍以降、4年ぶりのフルバージョンでの開催となり、当院からも発表を行いました。

中間管理者(副看護師長)を対象とした研修とその結果についてまとめたものを発表しました。コロナ禍で閉塞感が高く、管理者としてのやりがいを再確認できる場の必要性と、それを伝える言葉をもつことの重要性を伝えたいと取り組み報告をしました。他のセッションでも管理者の育成に試行錯誤されている現状があり、意見交換もできました。

久しぶりの完全現地開催での学会はwebでは味わえない、医療者どうしの一体感や仲間意識を感じ、コロナ禍での閉塞感を軽減できたように思います。それでおかれた状況は厳しいですが、互いに頑張っている発表を聞きながら勇気づけられた学会でした。

看護部長 藤田 晴美

「医療安全ニュースを活用した医療安全文化の醸成」について、前施設での取り組みについて発表しました。学会では、かつての上司や仲間など懐かしいメンバーに会いました。さらに広島ということで、牡蠣や広島焼きなどのグルメも堪能しました。

今年度初めて、重心を経験しているので、学会では重心の教育などについても興味を持って聞くことができ、また他の分野で今まで聞いたことがなかった内容も学べ、新たな知見が得られました。今後も研究的視点を持って、看護管理を実践していくたいと思っています。

西2階病棟 看護師長 平岡 淳子

私は、「強度行動障害のある重症心身障害者が安全に楽しんで食事をするための取り組み」について発表させていただきました。研究として纏める過程や他の方の発表を聞く機会を得られたことは、普段の看護を振り返る貴重な経験となりました。強度行動障害のある方に対して多角的な視点での行動分析の必要性、本人の意思を尊重した安心できる環境作りの重要性を感じました。今後も多職種で協働し患者の生活を支えていくことを意識していきたいと思います。最後に本研究に関わってくださった全ての方に心より感謝いたします。

東2階病棟 看護師 川北 史恵

マラソンを走る前は「疲れるから走りたくないな。」と消極的ですが、走り終えた後は「走ってよかった。」と達成感や開放感を味わうことがあります。マラソンの前後で感情が変化します。作業療法の後に表情が和らぐことがあります。当院の患者様は運動によって、感情がどのような変化をするのか?私は疑問に思いました。そこで今回、当院の患者に、運動を含んだ作業療法を実施し、前後における感情の変化をより詳しく検証しました。皆様のより良い作業療法の一助になればと願い、この結果を発表してきました。

リハビリテーション科 作業療法士
古川 十二条

第77回国立病院総合医学会にて「コロナ禍での超・準超重症児(者)におけるスタッフの療育活動の視点」を発表しました。会場では他施設を知ることができ、情報交換できる、大変有意義な学びの場となりました。

そしてこの調査を通して、ご家族の想いに改めて気づくことができました。今後も患者様とご家族のつながりをより一層大切にできるような支援を続けていきたいと思います。

療育指導室 児童指導員 平野 晴香
保育士 有富 小奈子



リハビリテーション科 理学療法士
鬼頭 良輔

第14回東海北陸重症心身障害ネットワーク研究会

今回、重症心身障害児（者）の看取りを経験して「その人らしさ」を大切にした関わりの振り返りのテーマで東海北陸重症心身障害ネットワーク研究会にて研究発表しました。研究をするにあたり、日々の看護の振り返りを行うとともに、今後大変になる看取りについての考察を行いました。初めての研究発表であったため、文献を用いての分析や考察は難しく大変なこともありましたが、自身の看護を振り返る良い機会になりました。今後もその人らしく生きるを援助できるよう、日々の関わりを充実させていきたいです。

東2階病棟 看護師 土井 明希

第46回東海北陸神経筋ネットワーク研究会

令和5年11月10日（金）、当院で第46回東海北陸神経筋ネットワーク研究会が開催されました。コロナ禍以降、久々の現地開催となり、研究会には13施設から70名以上の医療従事者が参加しました。



体位ドレナージに関する勉強会を導入した効果～看護師の知識と技術の向上を目指して～というテーマで発表を行いました。久しぶりの現地開催ということで、たくさんの施設から多くの方が参加されました。研究発表会では、各施設の取り組みがダイレクトに伝わり、どれも興味深い内容でした。私の発表は、心地よい緊張もありましたが、共同縁者の想いも込めて発表することができました。研究成果を病棟看護に活かし、質の高い看護ケアに寄与できるよう頑張っていきたいです。

第1病棟 看護師 角田 智哉

第2回生き生き健康フェア開催しました



令和5年11月15日（水）、イオンモール鈴鹿において、生き生き健康フェアを開催しました。当日は健康チェック、相談コーナー等のブースを設け、100名以上の方にお立ち寄りいただきました。

表彰状が贈呈されました

令和5年10月20日付で、独立行政法人国立病院機構理事長から新型コロナウイルス感染症対策についての鈴鹿病院の職員派遣を始めたとする当院の取り組みに対し、表彰状が贈呈されました。



療育指導室からの お知らせ



鈴鹿病院、「ジュラシックパーク」はじめました！

鈴鹿病院は筋ジストロフィー、重症心身障害児（者）、神経難病の患者さんたちが入院しています。コロナ感染症でさまざまな制限があった患者さんたちに少しでも「楽しい」「ドキドキ」「もっと遊びたい！」の気持ちを…との思いで、鈴鹿病院の中央病棟3階プレイルームに期間限定「ジュラシックパーク」を開催しました。

ジュラシックパークでは、恐竜のタマゴを見つけてもらうミッションがあり、患者さんたちにいつもとは違う雰囲気を味わってもらいながら、ゲーム感覚で参加していただきました。パーク内は、花ゾーン・光ゾーン・凸凹道ゾーン・水ゾーン・恐竜ゾーンと区画され、コースのあちこちに隠されたタマゴを見つける大型迷路になっています。

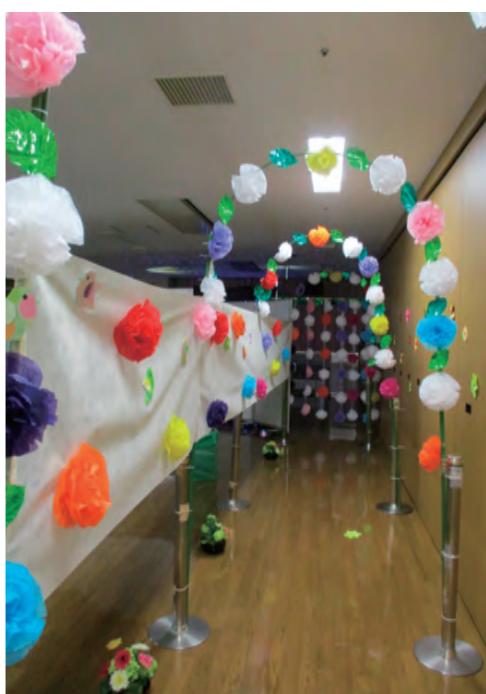
花ゾーンは、花のアーチをくぐります。とてもウキウキした気持ちを引き出してくれるアーチをくぐると、光

ゾーンに到着します。光ゾーンは、イルミネーション。とてもピカピカキレイに光るので、患者さんたちも目を奪われてウットリ…。しかし、ウットリしているのもつかの間。凸凹道ゾーンは、車いすがガタガタ・ゴトゴトするほど揺れて、不安な表情になる患者さんや思わず笑ってしまう患者さんも？！ 凸凹道ゾーンを頑張ってクリアすると、スズランテープとカラーポリ袋で作られた「滝」をくぐり、水ゾーンへ。滝のシャラシャラとした感触を喜ぶ患者さんや「これ、なに？？」と恐々と通る患者さん…と表情もさまざま。いっぱいの不安と怖い？楽しい？思いをして、ようやく恐竜ゾーンへ到着。恐竜の口からは、「ガオ～」と

煙がプシャーと出てきて、ビックリの表情の患者さんたち。それでも、タマゴを発見しなければ…との思いで、恐竜の大迫力に負けてしまいそうな気持を奮い立たせ、頑張ってタマゴを探し出し、見つけた時には、とっても素敵な笑顔いっぱいっていました。

今回はジュラシックパークでしたが、療育指導室の職員は患者さんたちが少しでも「楽しい！」と思ってもらえるイベントを企画・運営しています。クリスマスに、新年のお祝い、バレンタイン…とイベントはいっぱい。「次は何をしようかな…」「患者さんと一緒に楽しいこといっぱいしたい！」と職員は日々計画しています。

療育指導室 丸澤由美子



地域医療連携室だより

病棟内設備をご紹介いたします！
個室は明るくテレビも備え付け
です。



病棟内設備をご紹介いたします！
個室は明るくテレビも備え付け
です。

ストレッチャーを使用した機械浴



ステージトイレ



身体障害者用トイレ
(1か所) 昇降便座



お問い合わせ



病室



デイルーム



独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院 地域医療連携室 医療福祉相談室

電話：059-378-1321（代） FAX：059-379-6670（直通） お問い合わせ時間：平日8:30～17:15

成人式「20歳のつどい」

鈴鹿病院は「20歳のつどい」として、成人式を挙行しています。2023年度は1名の患者さんが20歳を迎えられ、1月17日（水）に開催されました。「新成人の誓いの言葉」「病院長式辞」「来賓祝辞」「記念品・花束贈呈」等、とても厳かな雰囲気の中で執り行われ、保護者の皆さんと一緒に「20歳」をお祝いできることは、職員としても、とても嬉しく思います。

2024年度も1名の患者さんが20歳を迎えます。さまざまな疾患を抱えられた患者さんたちが入院されている鈴鹿病院ですが、患者さんたちの節目をご本人・ご家族・職員が一緒にお祝いできるイベントを感染症に留意しながら行っています。

療育指導室 主任児童指導員 丸澤 由美子



医師募集しています

日本中と言っていいほど、内科、外科、産婦人科、小児科など多数の診療科で医師が足らず困っています。残念ながら鈴鹿病院もその一つなのですが、当院は救急病院の体制はとっておらず、政策医療の施設として緩やかな勤務が可能です。このたび、募集を強化すべくこの広報「鈴鹿の風」にも医師募集を掲載することにしました。これから働き先として、以下のような先生、鈴鹿病院はいかがですか。

- ・医療に貢献しつつ、ワークライフバランスも充実させたい
- ・結婚、出産、子育てにて診療から遠ざかっていたが、医業を再開したい
- ・子育て中でも勤務可能な職場を探している
- ・定年を過ぎたが、もうしばらく診療を続けてみたい
- ・研究職から臨床に戻りたい
- ・臨床の中から疑問を見つけ出し、臨床研究をやってみたい



筋ジストロフィー・神経難病・重症心身障害の患者さんとそのご家族のための医療を行なっておりますが、専門性に関係のない幅広い募集を行っております。詳しくは鈴鹿病院ホームページの検索をお願い致します。



現在ご勤務の病院や大学医局との関係を考えて数年以上先のご希望でも結構ですので一度ご連絡ください。また、この記事を読まれ、お心あたりのある方がいらっしゃればお伝え、ご紹介いただけますと幸いです。国立病院機構の手堅い病院です。どうかよろしくお願い申し上げます。

副院長 南山 誠 拝



よろしくお願いします



名誉院長の部屋

「本を出しました」

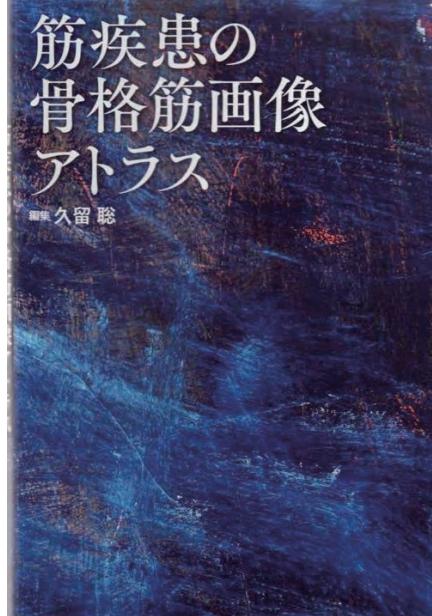
名誉院長 小長谷 正明

「本を出しました」

去年の夏前のことです。院長の久留先生が珍しくニコニコしながら私の部屋に入ってきて、A4判の大きな書籍を差し出しました。

タイトルは『筋疾患の骨格筋画像アトラス』編集・久留聰で医学書院発行。有名な医学書の出版社で、写真とカラー図版満載の上質紙で222ページの立派な本で、快挙です。前々から筋ジストロフィーや筋炎などのCTやMRIの研究をしてみえたので、その成果をまとめたのでしょう。しかし、その頃の私はよしなしごとで、ゆっくりと目を通せず、名誉院長室のテーブル上で積読（つんどく）しました（ご免なさいネ）。

やっと暦の上の夏が過ぎた頃、気分的に余裕ができたのでその本を開くと、筋肉の症状を示す多くの病気のCTやMRIが例示されており、それらの病気の症状や発症メカニズム、病理像（筋肉の顕微鏡所見）などを、ほどよくまと



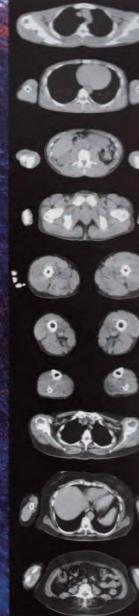
どう撮る、どう読む、どう生かす？ 筋疾患のCT・MRI

日常診療に欠かせない
待望の筋画像アトラス。

健常骨格筋画像も
イラスト付きで解説。

難病からコモンまで、
筋疾患の最新情報も
豊富に記載。

医学書院



選ばれた
骨格筋 CT・MRI 要像を
多数掲載!

筋肉を学ぶ
テキストとしても最適!

知的興奮でハイになり、そして、最後のピリオドを打つ瞬間には、達成感と同時に一種の脱力感が襲ってきた違いありません。学会の書籍売場にこの本が並べられていたり、顔見知りのドクター達に力作ですねと言われると、私まで誇らしくなって来ます。

私も、このような立派な専門書はありませんが、本を出してきました。きっかけは、二度目の鈴鹿病院勤めで神経難病棟を担当した時です。甲斐甲斐しく働いている看護婦（当時）さんが病気のことをちっとも理解していない。パーキンソン病と脳卒中の区別が怪しいし、多系統萎縮症やALSともなればパニックです。そこで、病棟の詰所で時々ミニレクチャーし、その内容を書いて幾つかの出版社に送ってみました。返却原稿の山にうんざりした頃、最難関の岩波書店から編集者がわざわざ鈴鹿病院までやって来て言います。

「先生、これからは筋ジスもCTですぜ。筋肉のやられ方も分かり、僕はこの子たちの変形した胸やお腹の中を見てみたい。治療の役に立ちますぜ」

しかし、鈴鹿病院にはCTではなく、他院に頼むにしても、撮影に時間がかかるし、移送も大変で、事務手続きも面倒臭そう。

「なに、僕が患者さんを運びますぜ、やりあいいじゃん」

ではと話が立ち上がりかけたところで、私に人事異動があり、立ち消えになってしまいました。CT黎明期ならではの研究ができただろうに、残念。

久留先生の本は何人のドクターの分担執筆で、かつての若手たちも今はオーバーリティ（権威者）になり、頼もしい限り。惜しむらくは鈴鹿病院のドクター達にも機会を与えて欲しかった。若い頃の私も、師匠の大先生から執筆をいわれ、天にも昇る気分で勉強し、筆を走らせたものですから。もちろん、編集者の彼もかなりの部分を書いています。

きっと、パソコンのキーボードを打ちながら、頭の中は

に突っ込み、車は大破でも彼は無傷だったとか、駅の高い階段から真っ逆さまに転げ落ちたが、背負っていたマンドリンのケースがクッションになってセーフ、まさに芸が身を助けたなどと…。で、僕のスピーチの番となり、エピソードを追加しました。

「彼にお世話を『神経内科』は1995年3月20日が発行日で、オウム地下鉄サリン事件のその日です。すぐに、サリンの神経毒について書いてあると週刊誌に取り上げられました。これも売上げに貢献したのでしょうか、ビギナーズ・ラックでベストセラーになりました。Momさんの強運のお裾分けです」

この本は学問にも貢献し、(脳)神経内科の社会的認知度を向上させ、医学生看護学生にも副読本としても読まれました。自分の顔面神経麻痺のことを書いたので、学会などで知らない人にまで顔は歪んでいませんねと声をかけられる始末。ある後輩ドクターの縁談では、お相手のお父さんが“神経内科”という診療科がよく分からず、私の本

でイメージできてゴーサインを出されたとのことです。もっと幸運を彼にもたらしています。後に『骨格筋画像アトラス』を出したのですから。

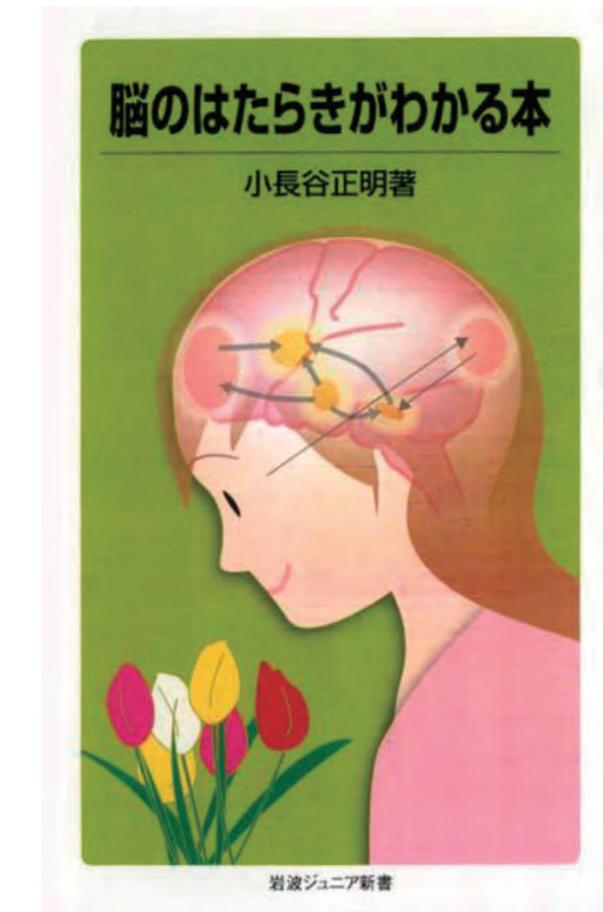
その“語る会”の会場には、彼の代表作の一つとして私の書いた岩波ジュニア新書も飾られていました。可愛い女の子の表紙です。そこそこ読まれ、中の文章は高校の入試問題や予備校・学習塾の模擬試験にも使われて、今でも雀の涙ほどの使用料がたまに送られてきます。小学校の通知表で国語が2だったとは信じられない話ですね。漢字の書き順がでたらめ、字が汚いなどでの落第成績。今ではパソコンのワープロ・ソフトに感謝しています。

最初の岩波新書が出てしばらくすると、墨痕鮮やかな封書が届き、『学士会報』への執筆を依頼されました。学会の大御所や将来がウルトラ有望な若手学者が書く雑誌なので、田舎の国立療養所の下っ端医長にはお呼びでない筈ですが、どなたかの目に留まり、何でもいいから書けという。で、少し目先をか

えて『独裁者の神経学』というエッセイを書き上げ、後日、『ヒトラーの震え、毛沢東の摺り足』という中公新書にしました。

そうこうしているうちに私は病院長になり、ゴタゴタ・イガイガの運営からの気分転換にメディカルエッセイを書くようになりました。名古屋からの自動車通勤なので飲み歩けず、歌唱障害者、つまり音痴なのでカラオケもダメで、スポーツはもっぱらテレビ観戦のみでゴルフも無縁、気晴らしは雑文書きぐらいしかありません。落合時代が終わり、中日ドラゴンズが弱くなってからはテレビ観戦も少なくなり、執筆にドライブがかかり何冊も出せました。立浪時代になんでもドラゴンズは弱いま。だから、去年も自分の若かりし日々の本を出しました。今さら青春記でもありませんが…。

でも、大のドラキチにして生真面目な久留先生は、中田翔の中日入りが吉に出ても、学問的執筆のペースは変わらないでしょう。



■ 外来診察担当表 (2024年1月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳 神 経 内 科	南 山	小 長 谷	久 留	小 長 谷	久 留
	木 村	酒 井			
内 科	野 口	野 口	牧 江	落 合	
		落 合			
小 児 科		予 約			予 約
整 形 外 科		田 中 (装具外来)			田 中
リハビリテーション科		田 中			田 中
皮 膚 科		予 約(午前)			予 約(午後)
歯 科	山 田(午前)	山 田(午後)		永 田(午後)	
禁 煙 外 来	野 口			落 合	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越しください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



編 集 後 記

「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともにご遺族の皆さんにお悔やみを申し上げます。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、復興に携わっている方々にエールを送りたいです。私も災害に負けぬよう「今」できることを精いっぱい頑張っていきたいと思いますので、今年もよろしくお願いします。

契約係長 福岡和也

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321㈹ Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>

令和6年1月発行